

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日: 令和 04年 02月 10日

公表: 令和 年 月 日

5名/5名

事業所名 放課後等デイサービス スマイル

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		蛍光灯等破損しない様にかバーがついている	通常より広めである。
	2	職員の配置数は適切である	4	1	紙ベース、ネット系での幅広い募集をしている	年末年始からのコロナ禍もあり不在になっている
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5		訓練室、静養室、事務所と床マットの色を変えている。全てバリアフリーになっている。	トイレも車椅子でも移乗が出来、フィテングも可能。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1	毎日、日々の子どもの様子の共有を必ず行っている	振り返りの時間を作り行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	2	近隣(保育園)との交流は療育当日の親御様にしか伝えられていない	つなげている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		ホームページではInstagramで写真での療育雰囲気も公表している	公表している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5		特に外部評価をしていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		紙ベースとインターネットでの最新情報の共有をしている	毎月の研修を行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	1	個別で議題にし総合的、ご家族、学校と話し合っている	話し合い課題を協議し反映している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1	経過記録より抜粋し判断をおこなっている。	アセスメントを使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1	スタッフそれぞれの感情での楽しみ方を表現している	活動プログラム以外、外出イベント等の立案も行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		スタッフから23個あげてもらい検証し療育に繋げてる	人数、男女比、年齢等のメンバーを確認してから毎日、療育内容を決めている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		来所のメンバーにもより療育内容を変更している	学校休校日は自然の療育を心掛け外食や外出イベント、料理教室なども行っている
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	1	固定の個別支援はPCを使い行っている	個別支援によりマンツーマンでの対応や療育内容の変化を反映している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		朝礼時共有している。また公休日等不在の時の内容も共有している	毎朝、前日や気になった事や現情報告を共有している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		共有LINEで共通認識を行っている	共有出来ている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		記録書類の徹底	反映し、家庭連携等でも親御様に伝えている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		半年に1回、個別に見直しの話し合いを行っている。	家庭連携で情報収集をしている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	1		おこなっている。

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			児発管、管理者がおこなっている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5		送迎時のご挨拶の時に状況報告などを行っている	関係機関連携を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5			まずは親御様からの情報を基にしている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	1		保育所との連携を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5			行う予定でいる。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5			支援センターの方と共有認識をしている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	1		公園で近隣の保育園や託児所と交流がある
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	1		地域の方との交流を大事にしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1		共通理解は携帯LINEで行っている。
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	1		携帯LINEから対面での家庭連携を行っている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			契約時の説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			携帯LINEから対面での家庭連携を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		お仕事をなさっている親御様が多く、保護者会等は行っていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			適時行っている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1		携帯LINEで行っている。毎月のお便りによる連絡をしている。
	35	個人情報に十分注意している	5			写真を撮る事があるので月3回は削除し他者の削除確認を行っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			携帯LINEで行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	1		近隣の方をお呼びしたが来てくれた事は無い。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1		職員には伝えてあるが、親御様にはお伝えはしていないがネットからの情報共有は行っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			年に2回は行っている。消防署にも報告している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			話し合いを行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	1		身体拘束の同意書も親御様との話し合いで行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			親御様からの連絡で対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			共有している確認印をもらっている。